

学校名	山形市立山寺小中学校	校長	高橋 郁子
	山形市大字山寺1650 023-695-2044	研究主任	岸 育子 (小) 後藤 岬 (中)
研究主題	<p>社会で通用する自立した個の力を備えた児童生徒の育成</p> <p>～自己調整力を育むカリキュラムマネジメント～ (1年次)</p>		
研究主題設定の理由	<p>山寺小学校は1年、2年が単式、3・4年、5・6年が複式学級、特別支援学級1学級の5学級で学習している。数年後には、児童数の減少により、完全複式学級になることが見込まれている。</p> <p>昨年度までは、複式学級で学ぶために、児童ひとりひとりに「自立して学ぶ力」をつけるとともに、個の学びをつないで思考を広げたり深めたりする「協働的な学び」が必要になると考え研究を進めてきた。また、中学校では、小学校で培った力をさらに伸ばし、場面が変わっても役立つ学び方や考え方を獲得した自立した生徒の育成をめざし、そのために表現力を磨き、自らの考えを表現する協働学習を通して、個の学びを深めたいと研究を進めてきた。</p> <p>今年度は、昨年度までの積み上げのもと、もう一度児童生徒を見つめ直す1年にしたいと考えている。小学校入学から中学校卒業までの9年間は、児童生徒数の減少により少人数での学習を余儀なくされる。教師がひとりひとりにていねいに関わる（個別最適な学び）よさもあるが、多様な考えによる思考の広がりや深まりはなかなか見られないのが現状である。また、児童生徒においては、人間関係の固定化による弊害も否めない。本校の現状と真摯に向き合いながら、9年後に山寺からもっと広い社会に巣立っていった先の未来で、生き生きと自信を持って生きていくことができる子どもたちを育てたい。そのためには、まず自己調整力を育てる必要があると考えた。9年間を見通したカリキュラムマネジメント表を作成し、系統立てて子どもたちを育てていきたいと考え、研究主題を設定した。</p>		
研究の目標	<p>めざす子どもの姿を明確にし、自己調整力を育むための9年間を見通したカリキュラムマネジメント表を作成し、実践しながら評価・改善を加え、より効果的な指導や支援を行っていく。</p>		
研究の内容	<p>① 子どもの実態を語り、めざす子ども像を共通理解していく。</p> <p>② 「自己調整力」「個別最適な学び」をどのように実現していくことができるかを学習の個性化という視点で日々の授業で検証し、共有していく。また、教師用振り返りシートを活用し、教師自らを振り返っていく。</p> <p>③ 9年間でどのように自己調整力を育てていくのかを系統立てて考え、カリキュラムマネジメント表を作成し実践しながら、軌道修正を図っていく。</p>		

<p style="text-align: center;">研 究 の 方 法</p>	<p>①「山寺の子どもたちに必要な力は何か」「よさは？足りないものは？」「山寺の子どもたちをどう育てていきたいか」など、率直に話し合う機会を設け、見えてきた課題を整理していく。</p> <p>②「自己調整力」について、またそれに伴う「個別最適な学び」についての研修をし、本校では、どのように具現化していくか、日々の授業を通して検証していく。本年度は、基本的には授業研は行わない。ただし、研修を進めるうちに自然発生的に授業研の必要観が出てきた場合は、行っていくこととする。学期末に小中合同の事例報告会を行い、共通理解を図っていく。また、積極的に校外の研修に参加し、学んだことを職員会議等で報告していく。</p> <p>③①、②のもと、9年間を見通したカリキュラムマネジメント表を作成していくための研修を行う。学期ごとをめやすに軌道修正しながら、1年かけてカリキュラムマネジメント表を作り、次年度は年度当初から活用できるようにする。次年度以降も、その都度改善、修正を加えていく。</p>
<p style="text-align: center;">研 究 の 計 画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「語る会」の定期的な実施（5／15、6／28、9／13、11／24、1／29） ・校内研修会 中井義時氏を講師とした「カリキュラムマネジメント」に関わる研修 （7月、10月ごろ） ・実践報告会（学期末） ・研修報告会（職員会議） ・カリキュラムマネジメント表の作成（7月～2月）